

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人伏古福祉会		
事業所名	グループホーム 藤苑 (はるか)		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201339&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型共同生活介護ということで、全職員が、認知症のプロとしての意識を持ち、常に自己研鑽を行い現在入居している利用者に対し見極める力をつけていると思う。また、目で見てても、味わっても利用者が喜ぶ食事を提供している。苑全体が明るい雰囲気や常に笑いが絶えないグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの一番の特徴は、些細なことでも利用者のためになる、またはサービスの向上に結びつくことは、まず取り組んでみるパワーがあることです。運営推進会議のメンバーに家族全員がなり、地域のボランティア、消防署員も含めるなど、幅広い内容の会議となっています。また、認知症への啓発のため、近くの小学校の児童や父母を対象とした紙芝居、寸劇の出前をするなど、積極的な行動が目立ちます。家族の意見・要望や苦情などをホーム運営に役立てるため、家族会での活発な意見交換やアンケートの実施など、サービスの向上に向けた努力が窺えます。夜間入浴も可能とした支援や終末期などへの対応など、職員全員がプロ意識に燃え、日夜研鑽されている姿を見ることが出来ます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりが地域社会の一員として、最後の時まで生き生きと生活出来るよう、地域に開かれたグループホームを目指している。地域自体がどんな状況にある方を普通の人として受け入れられる地域である様に地域住民と共に「地域力」を育てていきたいと思っている。	前年からの取り組み課題であった「地域に開かれたグループホームづくり」の理念を反映して明文化を図り、しっかりとロビーに掲げられています。理念に謳われる「地域住民と共に地域力を育てたい」との意気込みが、ホーム内に感じられます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園・小中学校との定期的の交流・町内会の行事の参加・毎日の散歩、買い物、防火訓練など毎年地域の方々との交流が増えている。	地域のあらゆる方々との深い交流を目指し、実践を通して着実に実現されています。特に認知症への啓発を寸劇、紙芝居など、出前の実践は高く評価されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で、認知症の事を少しでも理解して頂ける様、地域の小学校に出向き、小学生や父母の方々を対象に認知症の寸劇や紙芝居をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会のメンバーの方何人かは、行事などにはボランティアで参加して頂いたりして、サービスの実際や取り組みについての意見等活発に出して頂いている。	会議を構成するメンバーは、家族会の全員、また、ボランティアの方々、消防署員など幅広い構成であり、定期的な開催で、活発な会議となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施指導等を通してケアプランと日誌の連動した書き方など具体的に指導して頂いたり、毎日の業務な中で疑問があれば談話対応で協力して頂いている。	区の担当者とは、現状や疑問の解消など、具体的な指導を受けながら、運営の改善に役立てています。また、今後は評価で得られた課題など、改善に向けた協働が予定されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度は毎月の会議において、身体拘束の勉強会を行なっている。また、順番で職員にも外部研修においても参加する様心掛けている。	身体拘束のないホーム作りに、管理者始め職員全員が日々邁進しています。離脱や徘徊への十分な見守りなど、玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアの取り組みが行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修を年に1度行なうように心掛けている。それと同時に職員のストレスにも気をつけ、管理者、各階の責任者の三者会議において1人ひとりの職員の状態を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては研修にも参加しある程度の理解をしている。日常生活自立支援に関してはグループホーム協議会で出されたものを玄関に掲示し、できることは自分で行なう事が大切である事を常に職員と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶまでに何回か利用者・ご家族と話し合いの機会を設け、当苑の理念・方針を話し、理解して頂いた上で契約を成立させている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族会総会の前に苑の運営に関するアンケートを提出して頂き、総会当日に話し合っている。また運営推進委員会でも家族全員が委員会のメンバーになっている。	意見箱を設置して「お便り」での啓発、また、家族会の総会に合わせたアンケート実施など、様々な方法で家族の意見や要望を聞きながら、ホームの運営改善に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも管理者に対して職員は、自由に意見や提案を言える環境にある。それらは、主任等会議で運営者に伝えられている。	従来の職員、準職員の職制を、全て正職員制に改めるなど、待遇に関する事案も含め、運営に関する職員の意見・要望が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備しようとは、努力してくれていると思うが職員にはあまり浸透していないと思う。今年度に期待したいという声が多く挙がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に関して、管理者に任せている為、比較的行ないたい研修を実施しているが日中の研修を出来るよう検討して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すべて管理者に一任している為時間が無くなかなか、交流の機会を作る時間が取れていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを含め、管理者が話を聞く機会を多く持ち、本人の状態を見極めることから入り、まずは安心してもらえるような信頼関係作りを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご本人に対する思いを受け止めご家族が何を一番望んでいるかを見極め期待に沿えるように家族と共にご本人を支援している事を理解していただく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できればご本人に入所前に来て頂きご本人に当苑を見て頂く中でご本人の気持ちを見極め、まだここに入所するには早いと思った方には通所サービスや訪問サービスを紹介したこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの「生き方」を学ばせてもらっているという姿勢を忘れずに、利用者と過ごさせて頂く時間を大切にしながらコミュニケーションを通じ喜怒哀楽を共有し、時には人生を語り合う場面もあり信頼関係を築きながら支え合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるかぎり、ご家族には来苑の機会を多く持って頂き、本人にとってご家族がどんな状態になっても一番大切な存在である事を話している。御家族との信頼関係を築く事の重要性も職員間で共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰もが自由に入出入りできる環境や雰囲気作りに努めている。 又、友達関係が途切えないように可能な方には年賀状等を作成してもらったり、ご家族にも協力していただき連絡してもらい気楽に来苑して頂いている。	比較的近隣に住んでいた利用者が多く、利用者の家族及び同系の特養ホームからの知人、また、近くに住んでいる友人などが気軽に訪問しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者者同士、声を掛け合い「家に帰る」相談をしたり、慰め合ったりなど、自然に支え合っている場面がよくある。 認知症が深くなり、うまく他老と関わりができない方には、職員を介して関わってもらったり、レクリエーションを通して関わりを持ってもらうなどその都度、一人ひとりの性格や心境を把握して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された御家族の方が当苑に寄られ当時の話をされて行ったり、退所後にも元入居者の家族が要介護状態となり相談に来られた時にもその方に適したサービス等を紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の内容を定期的に見直し、毎月モニタリングしている。職員は常に入居者一人ひとりの希望や意向を考え、それに添って支援している。	介護計画の内容は日々職員が確認しあい、担当職員は毎日のモニタリングを通して、利用者の思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、ご家族にも詳しく生活歴を書いて頂き、定期的に見直し、一人ひとりの生活の背景を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの生活状態を書き、毎月のケースには一ヶ月の状態をまとめている。また、一人ひとりに担当をつけ個人々々を常に総合的に見るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、利用者担当職員が中心になり、毎月モニタリングを行い、サービスケア更新時にはご家族にも出席して頂き、カンファレンスを開催している。その結果を日ごろの支援に活かし、更に、介護計画書に反映している。	介護計画に基づいた日々の的確なモニタリングにより、ケース記録が行われ、それらの集積により、計画の見直しへの作業が継続されています。見直しのカンファレンスには、家族も出席しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプランと連動した日誌を作成し記入している。それらを毎月のモニタリングに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している施設・事業所からの入居時、また反対の場合も情報を提供し合い、その都度、柔軟な支援を行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの会「ひよこの会」の方々が日常的に来苑されている。又地域のピアノの先生が音楽療法をしてくれたり、消防署の方が運営推進委員会に参加してくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関の医師や看護師には、家族や本人の意向を伝えており医師と相談して決定した治療方針等は家族に情報として伝えた承を得ている。	従来からのかかりつけ医の受診は少なくなっており、大方はホームの提携医での受診もしくは往診により治療などが行われ、家族も同意しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度5月より医療連携加算をとり、特養の看護師が週1回勤務し、利用者の健康面を管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院に入院施設もある為、入院時は常に状況を連絡してくれており、出来るだけ早い時期の退院を、こちらも望んでいる事を理解している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った場合の話し合いは、家族全員と行っている。また、重度化になった場合は、早期にターミナルケアプランを作成して、医師・家族との話し合いも繰り返し、その都度ケアプランを作成して職員全員が共有できる態勢を整えている。	終末期を迎えるに際しては、家族と交わした指針に基づき、医師、家族との話し合いが持たれています。これまで数回の看取りも体験しており、ターミナルケアに関しては、職員全てが共有し、チームとして支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故対応マニュアルの定期的な勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の地域の連絡網も整備され、実際に地域の方々との訓練も行なっている。	災害時の避難に際し、いち早く住民の方々の協力が得られるよう、連絡網の整備ができており、臨場の訓練も行われていますが、マニュアルが作成されていません。	避難に際して現場の混乱を防ぐため、協力頂く住民の方々の役割などを予め明記したマニュアルが必要であり、これの作成及び避難訓練に反映されるよう取り組みに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に関しては日頃から十分に注意し定着している。	トイレへの誘導も耳元で囁くほか、「お薬の時間ですよ」などの配慮により、人格の尊重に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できることは自分で行って頂くことを基本にし、自分の人生は自分で決めたいと思うのが当たり前のことであるので、職員も自分勝手の介護にならないように、常に話し合い、気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人一人の意見や要望を聞き、その要望に添えるように一日の流れや予定を組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服、化粧等の新しいものがほしい、という時は、車を利用して買い物一緒に行き、ほしいものを自由に選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事ができる方には、食材を切る、盛り付け、お茶を用意する、食器洗い、食器拭きなど、一人ひとりに合わせたやり方で行ってもらっている。	職員が家庭の味を献立に取り入れ、色彩、味、盛り付けなどで食欲の増す工夫が行われています。職員も一緒に楽しい会話が覗えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎食記入し、個々の状態にあわし、特養の栄養士にカロリー計算を行なってもらい栄養バランスもチェックしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事、全員、口腔ケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がり、本人の負担になるまでは、全員トイレ介助を基本にしている。	できるだけトイレでの自力排泄を支援しています。オムツの使用する頻度も大幅に減少した事例もあり、職員の弛まざる努力が特筆されます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のヨーグルトは、全員毎日摂取して頂き、個人ではプルーンを摂取して頂いている方もいる。また、体操は毎日行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態に合わせていつでも、入浴を行なっている。夜間入浴希望者も現在2名程おられる。	利用者の体調を考慮しながら、希望に沿った入浴が行われており、現在2名の利用者が、夜間の入浴を楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前等は自由に居室で過ごし、フロアで過ごし、フロアで過ごしたりしている。また、なかなか寝付けない方に、ホット牛乳を飲用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握している。薬が変わった場合等は、日誌報告を必ず行ない全員が把握できるよう、担当が各自工夫している。		
48		○役割、楽しみことの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことやしたい事を介護者が決め付けず、常に職員はできること、出来なくなってきたことを見極めていくことを徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に関係なく本人の希望に添って出かけている。また、気候が良くなれば、毎日のように公園に散歩し、ドライブが好きな方々を連れて遠出も頻繁に行っている。	利用者の希望により、季節に関係なく散歩や外出を取り入れ、閉じこもりの防止と外気浴によるストレスの発散に努めています。ドライブによる雪祭り見学など、遠出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方に対しては、自分のお小遣いは自分で管理してもらい日々買い物等で自由に使って頂ける環境にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けてもらっている。手紙を書くことが出来なくなっている方は、本人と一緒に文面を考えながら、職員が代筆したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は、どの方にも不快な気分にならないように配慮している。また、季節の花や旬の食べ物の提供によって季節感を損なわないようにしている。	厨房を含む居間や食堂は、広いスペースを有しており、利用者は、思い思いの場所で寛ぎの時間を過ごしています。トイレも4箇所都合よく配置されています。沢山の写真に囲まれ家庭的な雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりが満足できる空間を、本人の状態に合わせて、フロアを3箇所に分け日中、安心して居られる場所を自分で選んでもらったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、自宅で使っていたものや思い出の品はそのまま持ってきてもらったり、居室に関しては、家族と相談しながらご本人の思い通りにして頂いている。	家族と相談して、家庭での馴染みの家具などが持ち込まれ、落ち着いた雰囲気がする居室となっています。暖房ヒーターのカバーが木製の作りで、暖かな色彩の工夫が見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の利用者の状態に合わせて手すりなどの設置や、家具の配置に留意している。		